

第3学年道徳科「友達を大切にするために」

学習指導者 好井 佑馬

単元を通して、振り返り場面において、「心に残ったこと」「今までの自分」の視点で振り返ることができるようにし、書いたことを友達と話し合い、再度自分を見つめられるようにすることで、学びを明確にできるようにしました。単元の終末には、これまでの学習を振り返り、自分の考えをもつ場を設定し、より長期的な視点で自分を見つめ、自分の変容に気付けるようにしました。

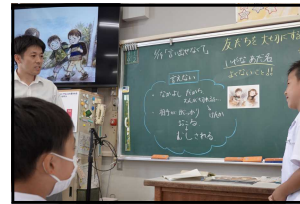
かずやにどんなことを伝えたいかな

【見通し】

単元を通して、学級目標を基に設定した「友達を大切にするクラス」にするためにどうしたらよいかを考えていたことを想起させ、本時の学習を行う目的を確認しました。そして、教材文のかずやが仲よしの友達に嫌なあだ名を付けられたのに、「やめてほしい」と言い出せなかった理由を問うことで、「嫌われたくない」などといった自分がした方がよいと思っても行動できない気持ちを想像できるようにしました。そして、同じような経験はあるかを考えさせることで、教材と自分をつないで考えられるようにしました。

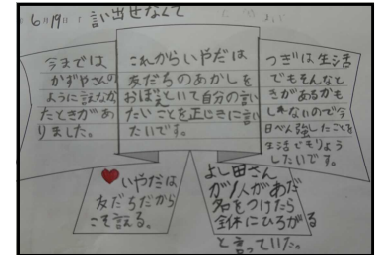
【行動】

「かずやに伝えたいこと」をペアで話し合った後、かずや役の教師に対して伝えてみる場を設けました。自信をもって「やめてほしい」と言った方がよいと思う理由を多様に話す子供に対して、「でも、仲よしだからこそ言い出せないんだよ」などと問い返すことで、正しいと思ってもなかなか実行できない気持ちについて理解を深めながら、自分がよいと思うことをきちんと行うことが両者にとってよいことや友達を信頼して行動することの大切さに気付く様子が見られました。



【振り返り】

これまでの道徳科の授業でも継続して用いているハートのリボンカードを用いることで、振り返る視点を提示しなくても自分から「今までの自分」を振り返り、記述する様子が見られました。また、友達と話し合う際には、「そうだね」「そうだったの」プレートを用いて反応を返せるようにすることで、対話を促しました。そして、話し合ったことを基に、再度自分の考えを見つめ直す時間を設けることで、友達考えを取り入れたり、自分が学んだことをはっきりとさせる姿が見られました。



成果と課題

- 役割演技を行いながら教師が問い返すことで、よいと分かっているにもかかわらず簡単にできない思いについて考えさせることができた。振り返る視点が明確なワークシートによって、指示がなくても振り返りを記述し、自分を見つめる様子が見られた。
- 見通し場面で正しいと分かっていると言えない状況を具体的に想定させたり、行動場面で自分の具体的な友達を想定させ、その友達に言えるかを問うたりすることで、より自分の生活を想像して自分を見つめることができたのではないかな。